

令和5年度 果樹の生育情報 No.3

令和5年7月3日
農業経営課

1 気象概況

5月以降も平年並み～やや高い気温推移となっています。

	<5月の平均気温>	<6月の平均気温>
岐阜市アメダス	20.1℃ (平年比+0.7℃)	23.8℃ (平年比+0.6℃)
恵那市アメダス	17.6℃ (平年比+0.6℃)	21.3℃ (平年比+0.5℃)
高山市アメダス	15.6℃ (平年比+0℃)	20.2℃ (平年比+0.5℃)

2 生育概況

クリの開花期が終了しました。前年並みに早い開花期となっています。

表1－果樹樹種の生育相 (令和5年7月1日時点)

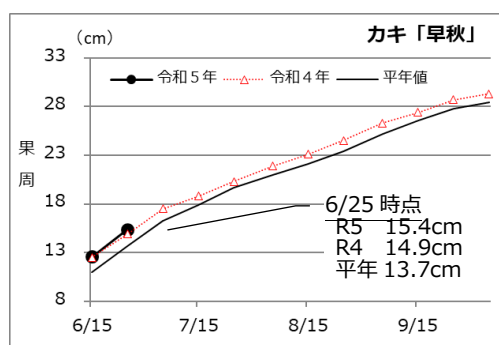
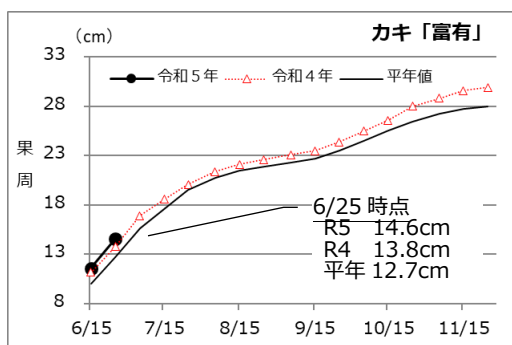
樹種	品種	年度	発芽期	展葉期	雌花開花始期	雌花満開期	前年比
クリ	丹沢	本年	3/21	4/24	6/4	6/12	満開期 2日早い
		前年	3/30	4/24	6/3	6/14	
		平年	—	—	—	—	
	筑波	本年	3/19	4/23	6/3	6/9	満開期 1日早い
		前年	3/30	4/24	6/1	6/10	
		平年	—	—	—	—	

※クリ：中山間農業研究所中津川支所（中津川市）、平年値データは無し

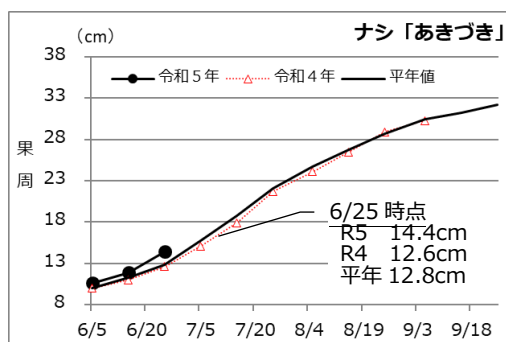
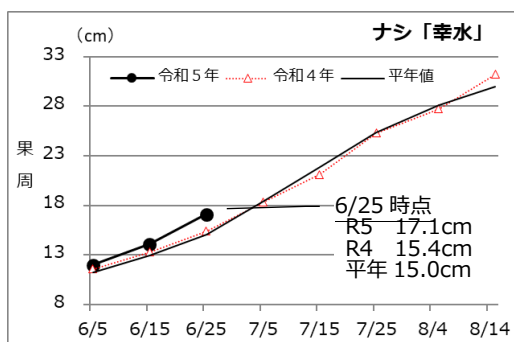
3 果実肥大状況

主要果樹の果実肥大は、前年、平年より大きく推移しています。

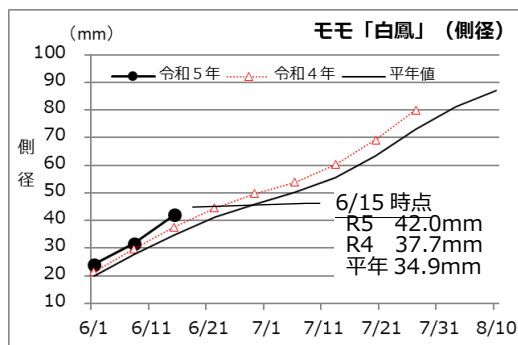
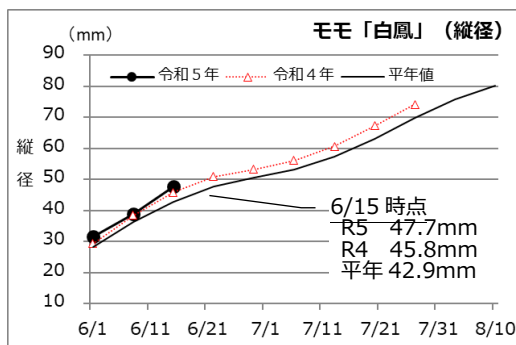
○カキ



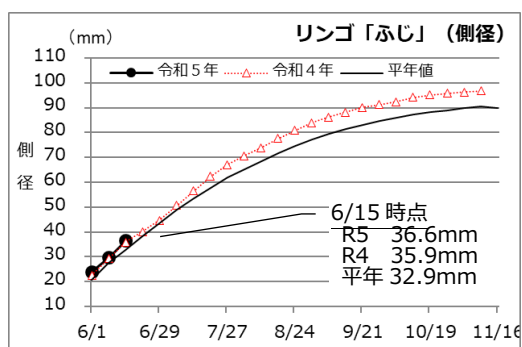
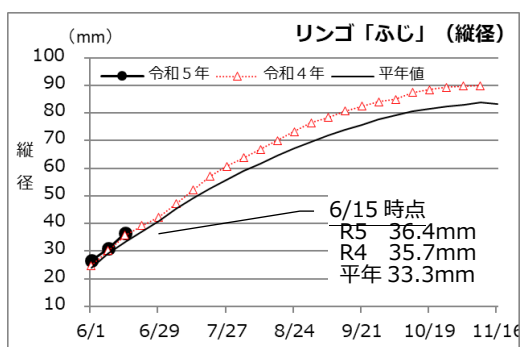
○ナシ



○モモ



○リンゴ



※カキ、ナシ：農業技術センター（岐阜市）、モモ、リンゴ：中山間農業研究所本所（飛騨市）

3 栽培上の留意点

梅雨明け後の7～8月は湿潤な梅雨時期の直後であるため、急激な高温や乾燥に弱くなっています。この時期の高温の影響は呼吸量の増加に伴う光合成産物の消耗による果実肥大抑制や日中の直射光により果実表面温度が上昇することで起こる日焼け果があります。

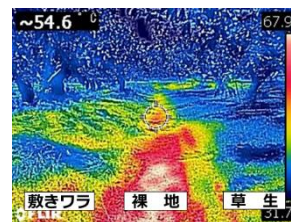
(1) 土壌水分管理

- ・10日以上降雨が見込めない場合は、7日間隔で1回のかん水量30mm以上を目安にかん水を行いましょう。

(2) 土壌表層管理

- ・草生園では、こまめに草刈りを行い、水分蒸散を抑えるとともに、刈り取った草は敷き草として利用し、土壌水分維持に努めましよう。
- ・清耕園では、写真のように地表面の温度は非常に高温となっており、土壌水分も低下するため、敷き草、敷きわら等を行い、土壌表面からの水分蒸散を防ぎましよう。マルチ資材の利用も有効です。

写真：カキ園をサーモカメラで撮影した状況（H30.8）



(3) 日焼け果対策

- ・果実に直射日光が当たらないようにすることが基本です。日焼け果は上向きでの発生が多いため、摘果時に横から下向きの果実を残すようにする。また、新梢をやや多めに配置し、果実に西日を直接当てないようにする。
- ・かん水を実施し、樹に水ストレスを与えないようにする（蒸散促進）とともに、日頃から土壌改良、堆肥の局所施用、排水対策により、土中の細根を充分発達させることが大切です。これにより、水ストレスによる気孔閉鎖が起きにくくなり、日焼けを防ぐことだけでなく、光合成を促進させ、樹勢維持や果実肥大といった効果も期待できます。